

茨城県における梅毒の患者発生状況について

茨城県衛生研究所¹⁾, 茨城県立医療大学保健医療科学研究科²⁾
○黒澤美穂¹⁾, 後藤慶子¹⁾, 土井育子¹⁾, 栗田順子²⁾, 永田紀子¹⁾

【背景】近年, 全国的に梅毒患者が急増しており, 2017年には国内で44年ぶりに5000人を突破した。今回, 茨城県における梅毒発生状況について報告する。

【材料及び方法】茨城県において, 2012年から2016年の5年間に, 感染症法に基づき届出があった梅毒182例について, 性別, 年齢群別, 推定感染経路別及び病型別等について分析を行った。

【結果】各年の報告数は, 2012年が23件, 2013年が24件, 2014年が24件と横ばいで推移していたが, 2015年は42件, 2016年は69件と急増した。各年とも男性が多かったが, 近年は女性が占める割合が増加した。特に10~39歳の若年層の女性(以下, 若年女性)においては, 2013年は4件であったが2016年は19件と約5倍に増加し, 2016年は女性全体の73%を占めた。推定感染経路は, 異性間性的接触が多くを占めていた。男性は2012年には異性間と同性間が同程度にみられたのに対し, 近年は異性間が同性間を大きく上回っていた。病型は, 男女ともに無症候が最も多かった。特に女性は無症候が4割以上を占め, 次いで早期顕症梅毒2期が多かった。また, 2016年には県内で8年ぶりの先天梅毒が1件報告された。

【考察】本県の梅毒発生状況は, 2015年から急増しており, 特に若年女性の増加が著しく, 全国と同様の傾向であった。妊婦の梅毒感染は先天梅毒を引き起こす可能性があることから, 今後は若年女性を中心に, 知識の普及及び検査受診率向上等早急な対応が必要と考えられる。